

# やさしい子になってほしい



## Q ものを大事にしない

自分の持ち物を大事にしないで、すぐになくしたり乱暴に扱って壊したりしてしまいます。どうしたらよいのでしょうか？

## A ものがあり過ぎるのではありませんか

お子さんがものを大事にしないのはなぜでしょうか？ものをなくしても困らないからでしょうか？なくしても、すぐに代わりのものが手に入るからでしょうか？まずは、お子さんの持ち物を一緒に見直して、衣類や持ち物がどのくらいあるのか、必要以上にものが溢れていないか、園に持っていくものには名前が書いてあるか、また、なくしたもの、壊れたものはないかなどを確認して整理することから始めてみるとよいと思います。

お子さんの持ち物を整理するための専用の棚やかごなどを決めてあげると、“自分のもの”を意識し、整理したり、片付けをしたりする習慣も身に付いてきます。保護者の方が、お子さんがなくしてしまったクレヨンなどは名前を書いて補充したり、取れてしまったボタンを付け替えたり、衣類や持ち物に目印のマークをつけたり、壊れてしまったもの（かばんや衣類など）があったら、修理、補修したりして、保護者の方がものを大切に扱う姿勢を見せることが大切です。保護者の方のそんな姿が、お子さんが“自分のもの”に愛着をもち、大事に扱うきっかけになると思います。また、園に持っていくものは、目印や名前を付けて、「今日のハンカチはこれね」「給食袋はこれだよ」などお子さんと一緒に身支度をする事で、自分の持ち物がよく分かり、他の子の持ち物と間違えたり、なくしたり、置き忘れたりすることなども少なくなると思われれます。また、ある園では、よくボールがなくなるので、ボールに名前を付けたらみんなでちゃんと探すようになったという話があります。ただ、「大切にしてください」と目くじらをたてるばかりでなく、そんな工夫をするのも楽しいですね。

最後に、衣類や持ち物は、何でも要求されたものをすぐ買い与えるのではなく、家族でよく吟味して、必要なものを選んでお子さんに与えるようにしましょう。大人でも子どもでも、ものが豊富に溢れ、なくしても代わりのものが簡単に手に入ると、ものがあることが当たり前になり、感謝や丁寧に扱う気持ちが少なくなります。反対に、ほしいものがなかなか手に入らず、我慢して、待った後でやっと手に入れた喜びは大きく、大切に扱う気持ちがもてるようになるのではないのでしょうか。時には我慢させることも必要なことですね。お子さんと一緒に楽しみながら、ご家庭にある“ものの見直しと整理”をして、“ものを大事にする気持ち”を育てていかれたらいいのでしょうか。



## Q 弟や妹（犬や猫）をいじめる

弟や妹をいじめて困ります。犬や猫もいじていることもあります。優しい子になってほしいのにどうしたらいいのでしょうか。

## A お母さん、お父さん、こっちを向いて

保護者の方は、子育てで毎日が目の回るような忙しさでご苦労されていることと思います。一方、お子さんも、小さいながらも弟や妹の兄姉として頑張っているのではないのでしょうか？本当は甘えたい気持ちやわがママを言いたい気持ちがあるのに、おにいちゃん、おねえちゃんとしてのプライドもあり、我慢してしまい、保護者の方に言い出せない、甘えられない、思い通りにならないなどのイライラした気持ちを上手く表現できないのかもしれないかもしれませんね。その結果、弟や妹、犬や猫など自分より弱者へのいじわるをして「お母さん、お父さん、こっち向いて」「一緒に遊んで」と、訴えているようにも感じられます。

まず、保護者の方は、お仕事や家事、育児でお忙しいこととは思いますが、短い時間でよいので、お子さんと一対一で向き合い、ギュッと抱きしめて、一緒に遊んだり絵本を読んだりして関わる時間をもってください。時には、弟や妹のように赤ちゃん抱っこをしたり、おんぶしたりして、スキンシップをとりながら甘えさせてあげることも必要です。また、お子さんができそうなお手伝いを頼んでみることも一つの方法です。例えば、洗濯物をたたんだり、お茶碗を洗ったりしながら、そばにおいて語りかけたり、お子さんの話を聞いてあげたりしてもいいですね。お子さんにとっては、弟や妹とは別の立場で、「大好きな人と一緒にいられる」「お手伝いを頼まれた」など、認められ受け入れてもらっている特別感や喜びを実感でき、大変にうれしいことだと思います。

しかし、保護者の方がお子さんに気持ちを向けて関わりを増やしても、すぐには状況が変わらず、弟や妹、犬や猫などに対して、おもしろ半分に意地悪をしてしまうことも考えられます。その時は、保護者の方は毅然とした態度で“やってはいけない”ことを伝え、「意地悪をする○ちゃんより、やさしい○ちゃんが好きだよ」「弟、妹（犬、猫）が痛かったらうね」など、相手の気持ちを思いやる言葉かけなどをしていくことも大切ですね。

このように、保護者の方が、お子さんを褒める時も叱る時もしっかり向き合い、思いを伝え合いながら関わっていくことで、お子さんの気持ちは満たされ、気になる状況は少しずつ改善してくると思われれます。しかし、どのくらい関われば改善するかは子どもによっても違いますし、年齢が小さい場合、保護者の方の子育てのご苦労はすぐには解消されないかもしれません。ただ、今はそうであっても、そういう時期は後から振り返るとほんの短い期間ですので、一人で悩まず園の先生にもご相談になり、園と家庭の双方で対応を考えていかれるとよいと思います。更に、地域の子育て支援活動などに参加し、同世代のママ友やパパ友をつくったり、子育ての悩みを共有しあったりして、子育てを楽しむ気持ちをもつことをお勧めします。少し、ゆったりした気持ちでお子さん達に関わり、成長を楽しみながら子育てをしていきましょう。

いろいろ関わってみたけれど、いつまでも状況が変わらず、ご心配が続く場合は、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭相談室（係）などにご相談してみるのもよいかと思われます。



### Q 友達に意地悪をする

“友達に意地悪をする”と園の先生から言われ心配しています。どうしたらよいのでしょうか？

### A お子さんと一対一で向き合って

ご心配ですね。“意地悪”と言われるのはどのような行為なのか、どんな時にするのか考えてみましょ

う。3歳くらいでは、まだ、自分の思いを言葉で相手に上手く伝えられなくて、友達をかじったり、おもちゃを取ってしまったり、順番を守らなかつたりするなど自分の気持ちのままに行動することが“意地悪”と見られることがあります。相手にも思いがあることがしだいに分かり、言葉で思いが伝えられるようになるとトラブルも少なくなってきますので、それまでは、友達を傷つけてしまった場合、大人が代わりに相手の子に謝る姿を見せることが大切です。また、同時に、具体的な場面で「入れて」「貸して」「ありがとう」「ごめんね」などの言葉や、順番や交替などの遊びのルールなどを教えてください。子どもは、頭で分かっているつもりでも行動になって身に付くまでには長い時間がかかりますので、気長に教えていきましょう。

4～5歳くらいで自分の思いを言える年齢でしたら、お子さんと向き合い、どうして友達に意地悪をしてしまうのか、どんな理由があるのかなど気持ちを聴いてください。“意地悪”をする行為の裏には必ず理由があるはずです。自分の気持ちを話すだけで、イライラした気持ちが整理され、どこが悪かったか気付く場合もあります。保護者の方は、できるだけお子さんが自分で考えられるようなヒントを与えたり、さりげないアドバイスをしたりして、気持ちを受け止めながら聴いてあげるとよいでしょう。意地悪をしている意識がなくても、相手が意地悪をされたと思ってしまう場合もありますから、「自分がされて嫌なことは相手にしないで」「怒ったりいばったりした態度でなく優しくね」など、自分の言動や態度を振り返り、相手の気持ちに気付くような言葉かけも大切です。また、「悪いと思ったら、相手にごめんねしようね」と、反省と謝罪が必要であることも理解できる範囲で話をしておきましょう。

お子さんも、時にはご家庭内での兄弟関係などに起因する不満から、“意地悪”をしたくなることもあるでしょう。そんな時には短い時間でもよいので、一対一で向き合って関わる時間を増やし、一緒に話をしたり遊んだりしながら、気持ちを受け入れ甘えさせてあげることも必要です。できるだけお子さんのよいところを認め、「〇ちゃんのこと大切に思っているよ、大好きだよ」「〇ちゃんのここがいいね」など保護者の方の気持ちを伝え続けてください。子どもは自分の存在が認められ愛されている実感をもつことで、気持ちが満たされて安定し、やがては、友達や弟妹に対しても優しく接したり、思いやりの気持ちをもったりすることができるようになると思われます。

その他、ご家庭で、保護者の方の子どもに対する言葉かけ方や対応が厳しく威圧的になっていないか、生活リズムが乱れていないか、睡眠は十分に取れているかなど振り返って改善することで、お子さんの気持ちや生活が安定し、ご心配の状況が解消される場合もあります。

園の先生には、お子さんの気持ちと家庭での対応を伝えながら、友達関係が上手くいくように支援していただき、園と家庭の双方で一緒に対応を考えていくとよいと思います。時間はかかるかもしれませんが、我が子の成長を信じて諦めず、ゆったりした気持ちで関わっていきましょう。



### Q 口答えや反抗をする

とても頑固な子で、叱られても泣かずに口答えをします。悪いことをしても認めず困ります。素直でやさしい子になってほしいのにどうしたらよいでしょうか？

### A お子さんの心に響く叱り方を

お子さんは、保護者の方が何に対して叱っているのか、何が悪かったかは、分かっているのではないのでしょうか。でも、“自分が悪いことをしたこと”を素直に認められず、頑固になり口答えをしてしまう

のでしょうか。保護者の方も、「叱っている」内容を、お子さんが頑固に受け入れず、泣きもせず口答えする姿に、だんだん腹がたち感情的になってしまうこともあるかもしれませんね。このような状況のお子さんを「困った子」と悩む前に、少し遠回りをするようですが、保護者の方の叱り方を変えてみることをお勧めします。まず、お子さんを叱る時は、主語を「私」から始めます。これは「私メッセージ」と言われています。主語が「あなた」では、子どもは「また、叱られるんだな、怒られるんだな」という思いが強くなり、素直に聞き入れようとはしません。「片付けなさい」「静かにしなさい」などの主語は、すべて「あなた」です。このような叱り方は、子どもの反発を招きやすく、やったことが悪いと分かっているにもかかわらず、頑固に認めなかったり、口答えしたりするなどの状況が見られるのだと思います。叱る時は、お子さんに保護者の方の気持ちを伝える必要があるため、主語は「私」にして、話をしてみましょう。もちろん、お子さんの気持ちを聴くことも忘れないでくださいね。

例えば、ゲームに夢中でテレビもつけっぱなしの子どもに対して、「もういいかげんにゲームをやめなさい。テレビもうるさいから消して！」と一方的に叱り付けてしまうことはありませんか？主語を「私」で伝えるとどうなるでしょう。「お母さん（お父さん）は、テレビの音がとてもうるさくて疲れてしまうし、お兄ちゃんはお勉強できなくて困っているよ。それに○君がゲームばかりやっていると、目や姿勢が悪くなるのではとても心配になるけど、○君はどう思う？」などと、言ってみると、お子さんは、なぜゲームをやめなければならないのか、また、保護者の方の困っている気持ちがよく分かり、自分の行動を変えやすくなります。もちろん、すぐには、保護者の方の期待している姿にならず、拒否されるかもしれませんが、「聞いてくれてありがとう」と、感謝の気持ちを伝えていきましょう。お子さんの状況がその時は変わらなかったとしても、保護者の方の気持ちは必ず伝わっていきます。

お子さんに「ああしろ、こうしろ」と、一方的な指示や命令を出すのではなく、判断を子どもに任せる気持ちの余裕をもちましょう。子どもには、もともと自分で判断する力がありますし、あると信じて待つことも大事な教育です。ただし、危険な遊びをしたり、人を傷つけたりするような行動をした時には、保護者の方は毅然とした態度で、理性的に「何が悪かったのか」を具体的に簡潔に伝えることが必要です。

叱る時は頭ごなしに叱るのではなく、保護者の方の気持ちを伝えながらお子さんの話に耳を傾け、心に響く叱り方を心掛けていかれると、お子さんの態度にもきっとうれしい変化が見られてくることと思います。



### Q 人のものを隠してしまう

人の上靴やかばんなど隠してしまい黙っているようです。どのように話をしたらよいのか分かりません。

### A お子さんの心の声を聴いてあげて

お子さんは、なぜ友達の上靴やかばんを隠してしまうのでしょうか？友達が困っている様子を見て面白がっているのでしょうか？「いえいえ、そんな子どもではない」と、保護者の方はお子さんを信じているけれど、どうしたらよいのか分からなくて困っているのですね。

子どもの中には、友達に遊んでもらいたかったり、仲間になりたかったりするのにも、自分の気持ちを素直に言えず、友達の上靴やかばんを隠す行為をしてしまう子どもがいます。また、自分で友達の上靴やか



ばんを隠しておいて、「ここにあったよ」と、見つけてみんなから注目され、うれしい気持ちになる子どももいます。“自分の思いが相手に言えない”“みんなに認めてもらいたい”など、気持ちが上手く表現できなくて、“悪いと分かっている行為”をやってしまう場合もあります。保護者の方は、ただ頭ごなしに叱るのではなく、お子さんを信じている気持ちを素直に伝え、気になる行為に隠れている心の声を聴いて理解してあげることが大切です。

まず、ゆっくり時間をかけて、保護者の方から話しかけ、園の様子や友達のことなど聴いてください。お子さんが話をしやすい雰囲気、膝に抱いたり、絵本を見せたりして、スキンシップをとりながら聴いてください。焦らず気持ちをほぐしながら対応しましょう。

そして、お子さんが自分の気持ちを言い始めたら、「一緒に遊びたかったんだね」「いやなことあったんだね」など、気持ちを受け止めながらも、自分のやったことが「相手に迷惑をかけることだ」と、相手の気持ちにも気付くように、「友達も上靴を隠されて困っただろうね」「○ちゃんも自分のものを隠されたら困るよね」「どうすればよかったのかな」などのヒントを出したりアドバイスをしたりして、「ごめんなさい」と相手に謝罪することも教えてあげるとよいと思います。ただし、話はあまり長くならず分かりやすい方が効果的です。

また、お子さんの存在を認め自信をもたせていくことも必要です。子どもは様々な経験をしながら認められ褒められて少しずつ自信が付いてくると、自分の気持ちを素直に表現できるようになっていきます。それには、「○ちゃんのよいところはここだね」「すごく頑張ってできたね」など、よいところや頑張りを認め、自信のないことは手助けしたり、背中を押してあげたりしながら励ましてください。小さなことでも意欲や頑張りを認め自信をもたせてあげましょう。「人のものを隠さないでね。○ちゃんの気持ちを相手にちゃんと伝えてごらん」などの励ましのメッセージを送り成長を見守っていかれるとよいと思います。お子さんの気になる行動を改善するには時間がかかるかもしれませんが、一人で悩まず、園の先生にご相談になり、園と家庭の双方で、対応していかれるのがよいかと思います。